

# 学校だより（後期学校アンケート結果号）

平成31年 3月11日  
京都市明徳小学校  
校長 岡本 雅文  
TEL 701-0111

## 後期学校アンケート集計結果概要

1月に行いました学校評価の集計結果および分析が整いましたので、ご報告いたします。

前期と同じ項目や質問内容でアンケートを行いました。今年度からの学校アンケートは、保護者・児童・教職員の3者がそれぞれの視点から、確かな学力（知）・豊かな心（徳）・健やかな体（体）の3つの観点で子どもとの関わりを確かめあえるようにし、それぞれの立場で取組やかかわりを振り返るような内容としています。したがって、3つの観点から、児童の実態を明らかにし、本校の教育の取組に生かしていきたいと考えています。

今回、保護者の皆様からは、504枚の解答をいただきました。お忙しい中、たくさんの方々にご協力をいただき、誠にありがとうございます。記述欄においても多くのお言葉を頂戴しました。概ね高い評価をいただいているように思われますが、まだまだ不十分な点も見受けられます。また、早急に見直さなければならない指摘もありました。後ほど、記述いただいたご意見についてご報告いたします。

【資料1】は、児童の実現度を表しています。実現度評価は、すべて5を超えてる結果から概ね満足できる状況です。今まで、高評価が続いているので、大きな変化や取り立てて課題としなければならないことにはなっていません。それぞれの項目に対する実現度の差が少なくなる傾向にありますので、相対的によりよい落ち着いた状況になってきているのではないかと捉えています。しかし、今回、多くの項目で0.1~0.2ポイント実現度が下がるという結果となりました。冬休み明けという時期や寒い時期などの影響もあったのかとも思いますが、本校がどうえている児童の実態は、少しずつ上向き傾向であるとらえていましたので、子どもの自覚と少しずれているのかかもしれません。子どもの実態をしっかりと分析し、教職員で共有化していくかなければならないと感じています。

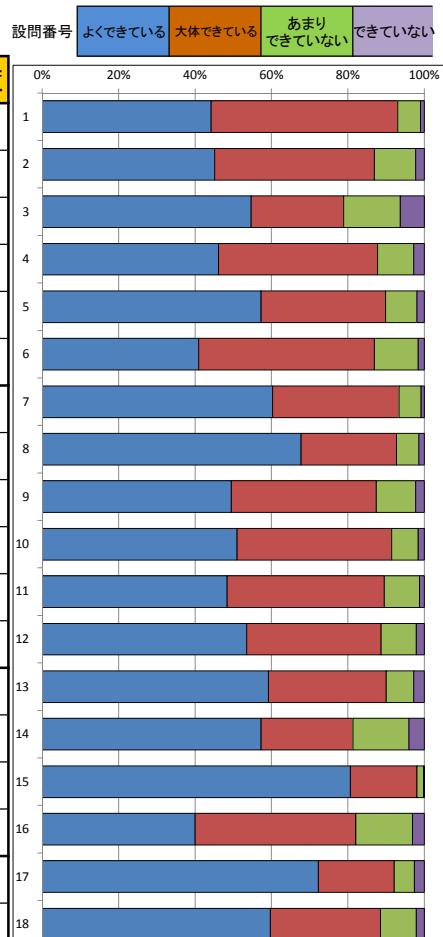
もっとも実現度が低かったのが、「16 早寝早起きなど1日の生活リズムを大切にすごしている」に関する項目です。前期ももっと低い項目でした。評価の時期が寒い時であったこととも関連しているかもしれません、早寝早起きに課題があるとの結果です。前期からも0.2ポイント減少していました。生活習慣に関する内容ですので、家庭と連携を図るとともに、子どもたち自身にも自覚を高めて生活できるように取組を進めていきたいと思います。

実現度が変わらなかった項目が、実現度6を超えている項目で「7 学校や家庭のルールを守っている」「8 自分からすんといいさつをしている」「15 交通ルールを守って安全に登下校している」「17 楽しく登校している」の4項目でした。

実現度が上がった項目は「5 宿題や家庭学習にすすんで取り組んでいる」という項目でした。学校の学習と家庭学習との連動や主体的な学びにつながるような取組など学習面で意識をして取り組んでいることが少しずつ子どもの自覚の変容につながりはじめているのかもしれません。引き続き、学びへの主体性や学校の学習と家庭学習との連動を意識して取り組んでいきたいと考えています。

## 【資料1】H30 後期児童の実現度

		児童	よくできている	大体できている	あまりできていない	できていない	実
1	知	めあてにむかってすんで学習に取り組んでいる。	254	280	34	6	0
2		わかるまでねばり強く学習に取り組んでいる。	259	240	62	13	0
3		学校や家で本を読んでいる。	314	139	85	36	0
4		自分の考えを話したり書いたりして相手に伝えている。	265	239	54	16	0
5		宿題や家庭学習にすんで取り組んでいる。	329	187	47	11	0
6		先生や友達の話をしっかりと聞き、よい姿勢や態度で学習に取り組んでいる。	235	264	66	9	0
7	徳	学校や家庭のルールを守っている。	346	190	33	5	0
8		自分からすんで、あいさつをしている。	389	143	34	8	0
9		すすんでスリッパやはきものをそろえている。	284	218	59	13	0
10		人の嫌がることをしたり、言ったりしていない。	293	232	40	9	0
11		言葉づかいで気をつけている。	278	236	53	7	0
12		苦手なことにも挑戦しようとしている。	307	202	53	12	0
13	体	給食を好き嫌いせず、食べている。	340	177	41	16	0
14		外遊びなど、すすんで体を動かしている。	329	138	84	23	0
15		交通ルールを守って安全に登下校している。	463	100	10	1	0
16		早寝早起きなど1日の生活リズムを大切にすごしている。	230	241	85	18	0
17	独自	楽しく登校している。	415	114	30	15	0
18		先生に、気軽に話しかけができる。	343	165	54	12	0



# 学校だより（後期学校アンケート結果号）

【資料2】は、保護者・児童・教職員の実現度を比較したものです。

各自が、子どもに対してどのような関わりができるのかを確認することで、児童の実現度との関連を見るようにしています。よって、学校アンケートの機会を通じて、教職員はもちろん、保護者の方も子どもとのかかわりや学校とのかかわりについて振り返っていただける機会にしていただければという思いも含めて設問の表現を変更しています。

アンケート結果は、前期までとは大きな変容はみられません。児童の実現度が最も高く、それに対して、保護者・教職員の実現度は少し厳しい評価を下しています。しかし、全体的に、子どもの実現と保護者、教職員の実現度の開きが狭まっています。今回、子どもの実現度は、少し下がる傾向でしたが、保護者や教職員の実現度が少し上昇傾向でした。中でも、保護者と教職員の実現度の傾向がにかよってきています。違いの大きい項目の中にはありますが、同じような視点やねらいで子どもに関わることができ始めているのと捉えたいと考えます。

保護者の方のアンケートの実現度は、今までの傾向と同じく項目間の差が狭まっています。教職員の実現度が、まだまだ項目ごとによる違いが大きい状況です。自分の取組の成果を自己評価するような質問項目の文言になっていますので、自らを厳しく見つめているのか、児童の能力は今後の取組次第でますます伸ばしていくことができるという思いを抱いているのかもしれません。また、前期と後期で、評価の規準にズレがあるのかもしれません。結果内容にかかわっては、校内で共通理解して、今後の本校の取組にいかしていきたいと考えています。

【資料3】は保護者・教職員の実現度に児童の実現度を高学年と低学年に分けて一覧にしたものです。

児童の高学年と低学年を比べると、すべての項目において、低学年の方が高い実現度に変わりはありません。特に、1～6の項目（「知 確かな学力」）に関しては、どの項目も同じような実現度の差となっています。ただし、今回、児童の実現度が下がった要因の一つは、低学年の実現度が下がったことに因ります。0.1～0.2ポイント、ほとんどの項目で下がるという結果でした。低学年の姿や実態をよく捉え、今後の学校教育の再検討につなげていかなければならぬと考えています。

## 【資料2】三者の実現度比較

□… 知 □… 徳 □… 体 □… 独自の取組等

	【保護者】	【児童】	【教職員】
6.6	■ 安全指導		6.6
6.5			6.5
6.4			6.4
6.3			6.3
6.2	■ 登校意欲 ■ 挨拶の習慣 ■ ルールの遵守		6.2
6.1			6.1
6.0	■ 登校意欲		6.0
5.9			5.9
5.8			5.8
5.7			5.7
5.6	■ 安全指導		5.6
5.5	■ 学校との連携		5.5
5.4	■ 思いやりの心		5.4
5.3	■ ルールの遵守		5.3
5.2	■ 挨拶の習慣 ■ 生活リズム		5.2
5.1	■ 学校との信頼関係		5.1
5.0	■ 話す・聞く ■ 主体的な学習 ■ バランスのよい食事		5.0
4.9	■ 学習への粘り ■ 運動意欲	■ 安全指導 ■ 言葉づかい	4.9
4.8	■ 学習規律	■ 意欲的な学習	4.8
4.7	■ 挑戦する心	■ 学習規律	4.7
4.6		■ 生活リズム	4.6
4.5			4.5
4.4			4.4
4.3	■ 活動参加		4.3
4.2	■ 読書の習慣		4.2
4.1	■ 整理整頓		4.1
4.0	■ 地域連携		4.0
3.9			3.9
3.8			3.8
3.7			3.7
3.6			3.6
3.5			3.5

## 【資料3】

## H30 3者後期実現度比較

1	知	意欲的な学習
2	知	学習への粘り
3	知	読書の習慣
4	知	話す・聞く
5	知	主体的な学習
6	知	学習規律
7	徳	ルールの遵守
8	徳	挨拶の習慣
9	徳	整理整頓
10	徳	思いやりの心
11	徳	言葉づかい
12	徳	挑戦する心
13	体	バランスのよい食事
14	体	運動意欲
15	体	安全指導
16	体	生活リズム
17	開	登校意欲
18	開	学校との信頼関係
19	開	学校との連携
20	開	地域連携
21	開	活動参加

保護者	教職員	児童	低学年	高学年
4.9	4.8	5.7	6.0	5.5
4.9	4.9	5.6	6.0	5.2
4.2	4.1	5.5	5.9	5.2
5	4.7	5.6	5.9	5.4
5	4.2	5.9	6.1	5.7
4.8	4.7	5.5	5.6	5.4
5.3	4.9	6.1	6.2	5.9
5.2	4.9	6.2	6.2	6.1
4.1	5.1	5.7	5.9	5.5
5.4	5.2	5.8	6.0	5.6
4.8	4.9	5.7	6.0	5.4
4.7	4.8	5.8	6.2	5.4
5	5.4	5.9	6.1	5.8
4.9	4.2	5.7	6.2	5.1
5.6	4.9	6.6	6.7	6.4
5.2	4.6	5.4	5.6	5.1
6	5	6.2	6.4	6.0
5.1	5	5.9	6.1	5.7
5.5	4			
4	3.9			
4.3	2.9			

## 【資料4】

## H30 後期保護者・教職員ニーズ度比較

			保護者 重要度	保護者 実現度	保護者 ニーズ度	教職員 重要度	教職員 実現度	教職員 ニーズ度
1 知	意欲的な学習	子どもがめあてにむかって進んで学習に取り組めるように見守り、励ましている。	6.7	4.9	20.8	6.9	4.8	22.1
2 知	学習への粘り	子どもがねばり強く学習に取り組めるよう見守り、励ましている。	6.6	4.9	20.5	6.8	4.9	21.1
3 知	読書の習慣	子どもが家で本を読むよう勧めている。	6.2	4.2	23.6	6.3	4.1	24.6
4 知	話す・聞く	子どもが自分の考えを表現できるよう励ましたり、伝えてきたことを受け止めたりしている。	6.7	5	20.1	6.7	4.7	22.1
5 知	主体的な学習	子どもが宿題や家庭学習に取り組むよう環境を整えている。	6.5	5	19.5	6.6	4.2	25.1
6 知	学習規律	子どもがよい姿勢や態度で学校の学習に取り組むようはたらきかけている。	6.5	4.8	20.8	6.7	4.7	22.1
7 徳	ルールの遵守	子どもが学校や家庭のルールを守るようはたらきかけている。	6.7	5.3	18.1	6.7	4.9	20.8
8 徳	挨拶の習慣	子どもに挨拶の習慣をつけられるように意識して取り組んでいる。	6.7	5.2	18.8	6.8	4.9	21.1
9 徳	整理整頓	子どもが履物をそろえるよう家庭でも気をつけている。	6.2	4.1	24.2	6.6	5.1	19.1
10 徳	思いやりの心	子どもが人の嫌がることをしたり言ったりしないように話している。	6.8	5.4	17.7	6.8	5.2	19
11 徳	言葉づかい	子どもがその場に応じた言葉づかいができるようはたらきかけている。	6.5	4.8	20.8	6.6	4.9	20.5
12 徳	挑戦する心	子どもが苦手なことにも挑戦できるよう励ましている。	6.4	4.7	21.1	6.6	4.8	21.1
13 体	バランスのよい食事	子どもが家庭で好き嫌いせずに食べるよう支援している。	6.1	5	18.3	6.3	5.4	16.4
14 体	運動意欲	子どもが体を動かして遊ぶよう勧めている。	6.3	4.9	19.5	6.3	4.2	23.9
15 体	安全指導	子どもが交通ルールを守ってすごせるようはたらきかけている。	6.8	5.6	16.3	6.7	4.9	20.8
16 体	生活リズム	子どもが早寝早起きなどリズムを整えて生活できるよう工夫している。	6.6	5.2	18.5	6.5	4.6	22.1
17 開	登校意欲	子どもは楽しく登校しようとしている。	6.8	6	13.6	7	5	21
18 開	学校との信頼関係	学校に気軽に相談できる。	6.6	5.1	19.1	6.8	5	20.4
19 開	学校との連携	学校だより・学級だより・ホームページなどで、学校の情報を得ることができます。	6.2	5.5	15.5	6.4	4	25.6
20 開	地域連携	地域の行事や教育活動に参加している。	5.5	4	22	6.4	3.9	26.2
21 開	活動参加	学校行事やPTA行事に参加している。	5.6	4.3	20.7	6	2.9	30.6

【資料4】では、保護者と教職員のニーズ度を比較しています。

25を超えるとニーズがあるとの判断でみると、保護者の中にはニーズがあるという項目はないこととなります。ただし、前期では、「9 子どもは履物をそろえるよう家庭でも気をつけている」にニーズがあると結果でした。今回も保護者の項目の中では、最もニーズ度が高い結果となっています。ニーズ度が下がった要因は、実現度が少し上がったことで、重要度も少し下がったことであると考えます。次は、「3 子どもが家で本を読むよう勧めている」です。実現度が低いため、ニーズ度が高いという状況となっていますが、これも、前期より実現度が高まっていますので、ニーズ度が下がってきてているという結果となっています。

教職員では、今回も4つの項目で25を超えるました。中でも、「5 子どもが宿題や家庭学習に取り組むように環境を整えている」（保護者質問文言）という主体的な学習に関わる項目でのニーズ度は依然高い状況です。全国学力学習状況調査の質問項目から、家庭学習の時間が少ないという傾向は続いています。主体的に計画を立てて学習に取り組む姿勢を育んでいくよう、校内でも十分状況を共有化し、家庭学習の充実に向けた取組を推進していきます。また、「3 子どもが家で本を読むよう勧めている」（保護者質問文言）という項目のニーズ度は2.9ポイント下がりました。少しずつ読書環境が整い始めているのかもしれません。しかし、まだまだニーズ度は高い状況ではあります。今回、前期でニーズ度が高かった項目が下がり、低かった項目が少しニーズ度が高まるという傾向となりました。どの点を意識して取り組んできたのかがわかる結果となりました。

保護者と教職員の認識を確認しながら、同じような視点で児童の育成にあたれるよう、引き続き連携を大切にしながら取組を進めていきたいと考えます。

「実現度」「重要度」については、以下の方法で数値化をしきおりより。

○それぞれの回答を以下のように数値化する

「よくできている・重要である」……7

「大体できている・やや重要である」……5

「あまりできていない・あまり重要でない」……3

「できていない・重要でない」……1

○それぞれの項目の総計を回答者数で割り、平均を出す。

●「無答」は、回答者数から除外し、別途分析する。

※「実現度」は、5を超えてると概ねできているととらえることができます。

★ニーズ度とは・・・

「重要度」「実現度」から「ニーズ度」（要求度）を以下のように算出することができます。

[ニーズ度の算出方法] ニーズ度=重要度×(8-実現度)

○とても重要（7点）だが、できていない（1点）の場合

7×(8-1)=49 [ニーズ度の最大値]

○重要でない（1点）で、できている（7点）の場合

1×(8-7)=1 [ニーズ度の最小値]

○やや重要である（5点）が、あまりできていない（3点）の場合

5×(8-3)=25 [ニーズ度があると判断す]

## 1 平成30年度 重点評価項目

人とのつながりや心身の健康を大切にし、これからの中を創りだす子どもの育成

○学力の向上（校内研究の充実・家庭学習の連携） ○自己管理能力の育成（健康教育の推進・運動機会の充実）

○心身の健康と規範意識の醸成（道徳、人権教育の充実・文化的経験の推進） ○開かれた学校の推進（家庭や地域の連携・伝統文化の充実）

2

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	分析を踏まえた取組の改善
確かに学力	基礎基本の充実 書く力の育成	全国学力学習状況調査・ジョイントプログラムの結果 児童及び保護者、教職員アンケートの結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョイントプログラムやプレジョイントプログラムの結果は、引き続き概ね満足できる結果となっている。</li> <li>・学年によるバラつきは少なくなっているが、2極化の解消には至っていない。</li> <li>・教科間のバラつきが少し見られ始める学年や算数科に少し課題がみられるようになってきた。</li> <li>・学習に対する評価は、児童の評価は概ね満足できる状況で大きな変化はないが、保護者と教職員が同じような認識になってきている。</li> <li>・話す書くや学習規律などの児童の評価は安定している。</li> <li>・話す聞く力の育成に向けた学校での取組が一定の成果となって表れてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究で、道徳を核とし、「話す・聞く力」を核に「言語能力の育成」に向けて授業の充実を進めてきたことは、児童の変容につながっているとされている。様々な場面で話し合う機会や児童主導の取組を取り入れていることが、児童の学びの機会を保障していることにつながっているとされている。しかし、子どもの差は大きくなっているところがあるので、すべての子どもが活躍できるような支援の仕方や取り組み方を考えいく必要がある。</li> <li>・言語能力の育成に関わる校内での取組は来年度3年目を迎える。2年間の取組を生かして、より充実した取組にしていきたい。</li> <li>・引き続き、児童の学力実態の把握を確実に行い、共有化を図り、目の前の児童の姿を基にした研究活動をますます推進していく。</li> <li>・家庭学習の充実にむけて、学年間の連携を強化していく。発達段階に応じた取組の系統性を充実させていく。</li> <li>・読書の充実に向けては、意図的な取組がまだまだ充実しきれなかった。読書週間の取組やブックトークなど工夫した本の紹介の時間を設定するなど活動の充実を進めていきたい。</li> </ul>
	読書活動の充実	学習中の児童の「話す・聞く」態度の変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習に対する学校としての認識を統一しながら取組を進めようとして、その成果が一定みられはじめているが、まだ徹底できていなかったり、不十分な取組なっているところがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の充実にむけて、学年間の連携を強化していく。発達段階に応じた取組の系統性を充実させていく。</li> <li>・読書の充実に向けては、意図的な取組がまだまだ充実しきれなかった。読書週間の取組やブックトークなど工夫した本の紹介の時間を設定するなど活動の充実を進めていきたい。</li> </ul>
	読書活動の充実	図書の貸し出し数の変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書の習慣は低学年ほど読書の機会が多い傾向は変わらない。読書が生活の中の一部として位置付けていくような取組にはまだ課題が残る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話す書くや学習規律などの児童の評価は安定している。</li> <li>・話す聞く力の育成に向けた学校での取組が一定の成果となって表れてきている。</li> <li>・家庭学習に対する学校としての認識を統一しながら取組を進めようとして、その成果が一定みられはじめているが、まだ徹底できていなかったり、不十分な取組なっているところがある。</li> <li>・児童の学力実態の把握を確実に行い、共有化を図り、目の前の児童の姿を基にした研究活動をますます推進していく。</li> <li>・家庭学習の充実にむけて、学年間の連携を強化していく。発達段階に応じた取組の系統性を充実させていく。</li> <li>・読書の充実に向けては、意図的な取組がまだまだ充実しきれなかった。読書週間の取組やブックトークなど工夫した本の紹介の時間を設定するなど活動の充実を進めていきたい。</li> </ul>
豊かな心	規範意識の醸成	児童及び保護者、教職員アンケートの結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな心に関わる評価項目の保護者の実現度が高まっているとともに、教職員と保護者の実現度が同じような傾向は続いている。</li> <li>・子どもの実現度がわずかに下がった。</li> <li>・あいさつやはきものに関しては、一定の成果が見られてきているが、まだ安定した成果を発揮できているとはいがたい。</li> <li>・ルールの遵守に関わる項目では、大きな変化ではなく、安定した評価となっている。</li> <li>・生徒指導上の細かな事案はまだ後を絶たない。いじめに関する事案も時にはある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭訪問など面談を定期的に行い、児童の姿を共有化して取組を進める姿勢をますます充実させていく。</li> <li>・子ども同士の交流の機会(たてわり活動や委員会活動など)が、気象条件や感染症の流行などで十分行うことができなかつた。次年度は、計画の仕方を見直し、継続して取り組めるようにしていきたい。</li> <li>・系統性を意識した人権学習や道徳学習の取組が充実し、定着はじめている。そのことも子どもの変容につながっていると思われる。引き続き取組の継続と充実を図っていくとともに、本校の特質をより顕著化させた取組を模索していく。</li> <li>・生徒指導上の問題やいじめの事案に対して、迅速に対応できる組織をますます確立していく。そして、できる限り見落としのない対応や組織として対応していくことで、大きな問題には発展しないように対応していくよう、組織力の強化を図っていく。</li> </ul>
	クラマネ・いじめアンケートの回答状況			
	あいさつやはきもの揃えなど児童の変容			
健やかな体	健康教育の推進	児童及び保護者、教職員アンケートの結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動能力テストの結果から、男子の運動能力が下がり女子の運動能力が高まっている。しかし、どちらも全国平均より低い傾向である。</li> <li>・与えられたことはしっかりと取り組む。主体的に自ら目的意識を持って活動する機会が増えてきている。</li> <li>・安定した生活習慣の子どもは多いが、早寝早起きなどの生活リズムの実現度が下がっている。また、高学年になるとつれて、乱れてくる傾向にある。</li> <li>・「交通ルールを守って安全に登校している」項目の児童も保護者も教職員も実現度が高い。しかし、子どもの姿をみていると、まだ地域やPTAの見守り活動があつてできているところがあり、見守り活動がない時や下校時、放課後など横着な行動をしている報告をうけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣アンケート結果をもっと有効に活用できるようにする。学校全体の姿を教職員で共通理解を図るとともに、課題のある児童に対して個別に対応するなど保護者と連携を図りながら生活習慣の確立につなげていく。</li> <li>・児童の主体性を高め、児童会活動などを活性化させ、自ら生活習慣の改善に向けて取り組めるような委員会活動の取組を考案していく。</li> <li>・たてわり遊びやロング昼休みの定期的な実施をより検討していく。</li> <li>・大きな事故やけがはおこっていないが、ヒヤリハットな現象は何度も見られている。安全に対する認識を高めるとともに、安全ノートの活用などを通して定期的に安全面への指導を続ける。そして、命や体の大切さについて考える時間も定期的に設定し、自らの命を自らで守ろうとする心情を高める。また、危機管理意識を養っていくとともに、どの場面でも同じような行動ができるように継続した指導を行う。</li> </ul>
	生活アンケートの結果			
	体力の向上	運動能力テストの結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園活用のルールが変更され、「めいとくのやくそく」の変更を余儀なくされたが、大きな課題には今のところなっていない。</li> </ul>	
学校独自の取組	伝統文化教育の充実	総合的な学習の時間の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの登校意欲が高いことや保護者もそのように認識いただいていることはありがたい。</li> <li>・明徳農園での活動は生活科や総合的な学習の時間の中で継続して行っている。地域の方々の協力により、充実した機会となっている。</li> <li>・わきの山の取組については、チマキザサの保存に関わる見通しが持てるようになってきた。児童の活用方法については、まだ検討しなければならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPなどの情報発信の学年間の差が少なくなるようにしながら継続していく。校門付近に設置した掲示板の活用方法を検討する。</li> <li>・働き方改革を意識しながらも教職員の顔が地域でもわかるように、地域の行事には、教職員も参加して、子どもの様子を確かめ地域との交流ができるようになる。</li> <li>・わきの山にかかるわけでは、チマキザサ保存にむけて、地域や学識者の助言をいただきながら行ついく。</li> </ul>
	地域との連携	運営協議会の方々の意見アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・・・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明徳農園の取組に対して、学習課程の共有化や整理、申し送りなどの充実を図り、取組を可視化して、計画立てやすいようにする。</li> <li>・地域との交流の機会を、年間計画の中で位置付けるとともに、末永く取組ができるように内容や時間など検討していく。</li> <li>・北稜高校との連携を引き続き行い、学習効果を高めていく。</li> <li>・保幼小連絡会の開催や小中連携「洛北のWA」などの取組を継続するとともに充実させていく。</li> </ul>
	開かれた学校づくり	HPや学級だよりに対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開かれた学校づくりにむけて、HPや学校だよりをもとに継続して配信していることが、ずいぶん定着してきた。しかし、配信した内容に学年間でのバラつきが大きい。</li> <li>・学校だよりの内容についてご意見や感想をいただく機会が増えてきている。</li> </ul>	
	保幼小中連携	保幼小連絡会 小中連絡会 洛北のWAの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会の方々に学校の取組に対して、気にかけていただいている。支援いただき学校運営を支えていただいている。</li> <li>・4年の環境学習や吹奏楽部など、北稜高校との連携が継続できている。</li> </ul>	

## 平成30年度 学校アンケート 設問内容一覧

		子ども	保護者	教職員
1	知	意欲的な学習	めあてにむかってすすんで学習に取り組んでいる。	子どもがめあてにむかって進んで学習に取り組めるように見守り、励ましている。
2		学習への粘り	わかるまでねばり強く学習に取り組んでいる。	子どもがねばり強く学習に取り組めるよう見守り、励ましている。
3		読書の習慣	学校や家で本を読んでいる。	子どもが家で本を読むよう勧めている。
4		話す・聞く	自分の考えを話したり書いたりして相手に伝えている。	子どもが自分の考えを表現できるよう励ましたり、伝えてきたことを受け止めたりしている。
5		主体的な学習	宿題や家庭学習にすすんで取り組んでいる。	子どもが宿題や家庭学習に取り組むよう環境を整えている。
6		学習規律	先生や友達の話をしっかりと聞き、よい姿勢や態度で学習に取り組んでいる。	子どもがよい姿勢や態度で学校の学習に取り組むようはたらきかけている。
7	徳	ルールの遵守	学校や家庭のルールを守っている。	子どもが学校や家庭のルールを守るようはたらきかけている。
8		挨拶の習慣	自分からすすんで、あいさつをしている。	子どもに挨拶の習慣をつけられるように意識して取り組んでいる。
9		整理整頓	すすんでスリッパやはきものをそろえている。	子どもが履物をそろえるよう家庭でも気をつけている。
10		思いやりの心	人の嫌がることをしたり、言ったりしていない。	子どもが人の嫌がることをしたり言ったりしないように話している。
11		言葉づかい	言葉づかいに気をつけている。	子どもがその場に応じた言葉づかいができるようはたらきかけている。
12		挑戦する心	苦手なことにも挑戦しようとしている。	子どもが苦手なことにも挑戦できるよう励ましている。
13	体	バランスのよい食事	給食を好き嫌いせず、食べている。	子どもが家庭で好き嫌いせずに食べるよう支援している。
14		運動意欲	外遊びなど、すすんで体を動かしている。	子どもが体を動かして遊ぶよう勧めている。
15		安全指導	交通ルールを守って安全に登下校している。	子どもが交通ルールを守ってすごせるようはたらきかけている。
16		生活リズム	早寝早起きなど1日の生活リズムを大切にすごしている。	子どもが早寝早起きなどリズムを整えて生活できるよう工夫している。
17	開かれた学校づくり	登校意欲	楽しく登校している。	子どもは楽しく登校しようとしている。
18		学校との信頼関係	先生に、気軽に話しかけることができる。	学校に気軽に相談できる。
19		学校との連携		学校だより・学級だより・ホームページなどで、学校の情報を得ることができている。
20		地域連携		地域の行事や教育活動に参加している。
21		活動参加		学校行事やPTA行事に参加している。